

単元目標

【データの分布について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。】

【知識及び技能】

- ① ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解すること。
- ② コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理すること。

【思考力、判断力、表現力等】

- ③ 目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること。

なぜ
学ぶのか



単元のスタート時に、学習内容が身に付いた生徒の「単元のゴール時の姿」をイメージすることが大切です。



単元 スタート



急速に発展しつつある情報化社会において、データの傾向を読み取って判断したり統計的に問題解決したりするためには

1 節

- ① ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解する
- ② コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理する
- ③ 目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する

(13)

()は、時数を表しています

思考力・判断力・表現力を育成する授業の展開例

展開例Ⅰ

展開例Ⅱ

展開例Ⅲ

※トップページから見られます

単元 ゴール



データの量が多い場合は、ヒストグラムの形状(全体の形、左右の広がり、範囲、山の頂上の位置、対称性など)に着目すると、傾向が捉えやすいことが分かったわ。



相対度数を使うと、大きさ(総度数)の違う2つ以上の集団のデータの比較がしやすくなったよ。累積相対度数を使って比較することもできたよ。



大量のデータをヒストグラムに整理するとき、コンピュータを利用した方が効率的だったわ。階級の幅を変えたヒストグラムも簡単に作ることもできたわ。



日常生活の中にあるデータを例にして、データを多面的に見て、読み取ったことを根拠として判断することができるようになったよ。